キセキ

17,575票

大荒れの菊を制した奇跡の走り

菊花賞の長い歴史で、不良馬場は3度しかない。台風が接近し横殴りの雨が降りしきる中、恐らくはレース史上最もぬかるんだ馬場で行われたともいわれる2017年の菊花賞を制したのが、キセキだった。

香港のクイーンエリザベスⅡ世Cを制したルーラーシップの初年度産駒として生まれたキセキは、2歳暮れの新馬戦を圧勝するも、3歳春はセントポーリア賞5着、すみれS3着、毎日杯もアルアインの3着と賞金を加算できず、クラシック戦線には乗れなかった。しかし夏に条件戦を連勝すると、神戸新聞杯でも日本ダービー馬レイデオロの2着に追い込んで菊花賞の優先出走権を獲得。ついにクラシック出走が叶ったのだった。

この年の菊花賞は、レイデオロが次走をジャパンカップに定めて回避。スワーヴリチャードも秋の始動が遅れ、アドミラブルは脚部不安と、日本ダービーの1～3着馬がすべて不在で行われることとなった。

第78回　菊花賞(GI)

2017年10月22日　京都競馬場　3000㍍(芝・右・外)　雨・不良　18頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	キセキ	牡3	57	M.デムーロ	角居　勝彦	3:18.9	①	14 14 12 7
2	クリンチャー	牡3	57	藤岡　佑介	宮本　博	2	⑩	11 11 7 2
3	ポポカテペトル	牡3	57	和田　竜二	友道　康夫	ハナ	⑬	9 7 7 3
4	マイネルヴンシュ	牡3	57	柴田　大知	水野　貴広	1 1/2	⑪	15 15 13 7
5	ダンビュライト	牡3	57	武　豊	音無　秀孝	1	④	7 7 3 1

レースは、泥田のような馬場にスタミナを奪われた各馬が次々と脱落していく消耗戦に。逃げたマイスタイルは3コーナー手前で力尽き、結局大差のしんがり負け。直線ではダンビュライトとクリンチャーが前に出て、これをポポカテペトル、ミッキースワローが懸命に追う。その大外から迫っていったのがキセキだった。

後方から外を回って上昇したキセキは、競り合う各馬を力強く交わし、最後は2馬身突き抜けてゴール。自身は1番人気だったが、2着クリンチャーは10番人気、3着ポポカテペトルは13番人気で、3連単の55万9700円は今も残るレース史上最高配当。天候も馬場も、そして結果までもが歴史に残る大荒れの菊花賞となった。

キセキはその後も7歳まで活躍。2018年ジャパンカップは果敢な逃げでアーモンドアイの2着、2020年宝塚記念では一気の捲りでクロノジェネシスの2着など数々の印象的な走りで沸かせたが、勝利はこの菊花賞が最後。とびきりの個性派の、まさに「代表作」と呼べるレースだった。

キセキ *Kiseki*　2014年5月13日生　牡　黒鹿毛

父:ルーラーシップ　母:ブリッツフィナーレ　母の父:ディープインパクト
生産:日高・下河辺牧場　馬主:石川達絵氏
通算成績:33戦4勝(うち海外4戦0勝)

主な勝ち鞍
2017年　菊花賞(GI)

未来へ、走り続ける。
70th ANNIVERSARY

メモリアルヒーローファン投票結果

2023年に行った70周年メモリアルヒーローファン投票、本競走の結果は以下の通りです。
3位:キセキ(17,575票)

1位 ディープインパクト 23,225票

2005年の優勝馬。単勝オッズ1.0倍の圧倒的人気の中、直線で鋭い末脚を見せ勝利。シンボリルドルフ以来2頭目、21年ぶりとなる無敗の三冠を達成した。

2位 コントレイル 18,473票

2020年の優勝馬で、最後の直線で早め先頭からアリストテレスの強襲を最後まで凌ぎ切って勝利した。父ディープインパクトと同じ無敗での三冠達成であった。

4位 ナリタブライアン 13,884票

“シャドーロールの怪物”と呼ばれた1994年の優勝馬。本競走では2着馬に7馬身差をつけての圧倒的勝利で、史上5頭目の三冠馬となった。

5位 オルフェーヴル 13,210票

2011年の優勝馬。レースでは最後の3コーナーから徐々に進出を開始すると、直線では独走状態となりそのままゴールした。史上7頭目の三冠馬。

特設サイト

同一の競走馬が複数のレースで1位となった場合、その競走馬は最も多く票を獲得したレースの「メモリアルヒーロー」といたします。その他のレースにつきましては、2位以下となった競走馬から得票数の多い順に繰り上げとなります。(同一の競走馬が複数レースの「メモリアルヒーロー」となることはありません。)